

4. 都市空間整備の方針

(1) 都市空間整備の考え方

- ・まち全体の一体感の創出や、周辺地域との調和・連携・交流に向け、特徴を持ったまちの空間づくりや、円滑な歩行者動線の確保など、跡地等における都市空間整備の考え方を示す。

1. 特徴を持ったまちの空間づくり

① 貝塚駅へのアクセス性向上や駅前空間の創出

- ・貝塚駅においては、国道3号から駅へのアクセス性向上とともに、交通結節機能の強化を図る。
- ・交通結節機能を持つ貝塚駅にふさわしい駅前空間を創出するため、憩い、賑わい・交流機能の導入や空間づくりと利便性の向上を図る。

② 箱崎九大前駅の駅前にふさわしい空間

- ・駅と跡地等を繋ぐ新たなまちの顔となり、人々が憩い、交流できる駅前にふさわしい空間づくりと利便性の向上を図る。

③ 憩い・賑わい・交流機能のある空間

- ・新たに整備する公園を中心として、人々が憩い、賑わい、交流する空間づくりを目指し、歩行者の骨格動線である「歩の軸」や近代建築物活用ゾーンなどと連携することで、シンボリックな空間づくりを行う。

④ 南北の一体感を創出する空間

- ・南北エリアの一体感を創出するため、統一感を持った広場等の整備や南北を繋ぐ円滑な歩行者動線の確保に向けた検討を行う。

⑤ 周辺地域からの入口となる空間

- ・箱崎駅や既成市街地を含む周辺地域からの連続性に配慮し、まちの入口としてわかりやすく親しみのある空間づくりを行う。
- ・また、堅粕箱崎線・原田箱崎線の入口となる空間は、自動車を利用した来街者を迎え入れる場所としてもふさわしい空間づくりを行う。

2. 歩行者の骨格動線となる「歩の軸」^{あゆみ}

- ・安全性、回遊性を向上させ、憩い・賑わい・交流を生み、生活を豊かにする歩行者空間創出のため、そうつき※たくなる歩行者の骨格動線となる「歩の軸」の形成を図る。
※そうつく：歩き回るという意味

3. 自動車・自転車動線の整備

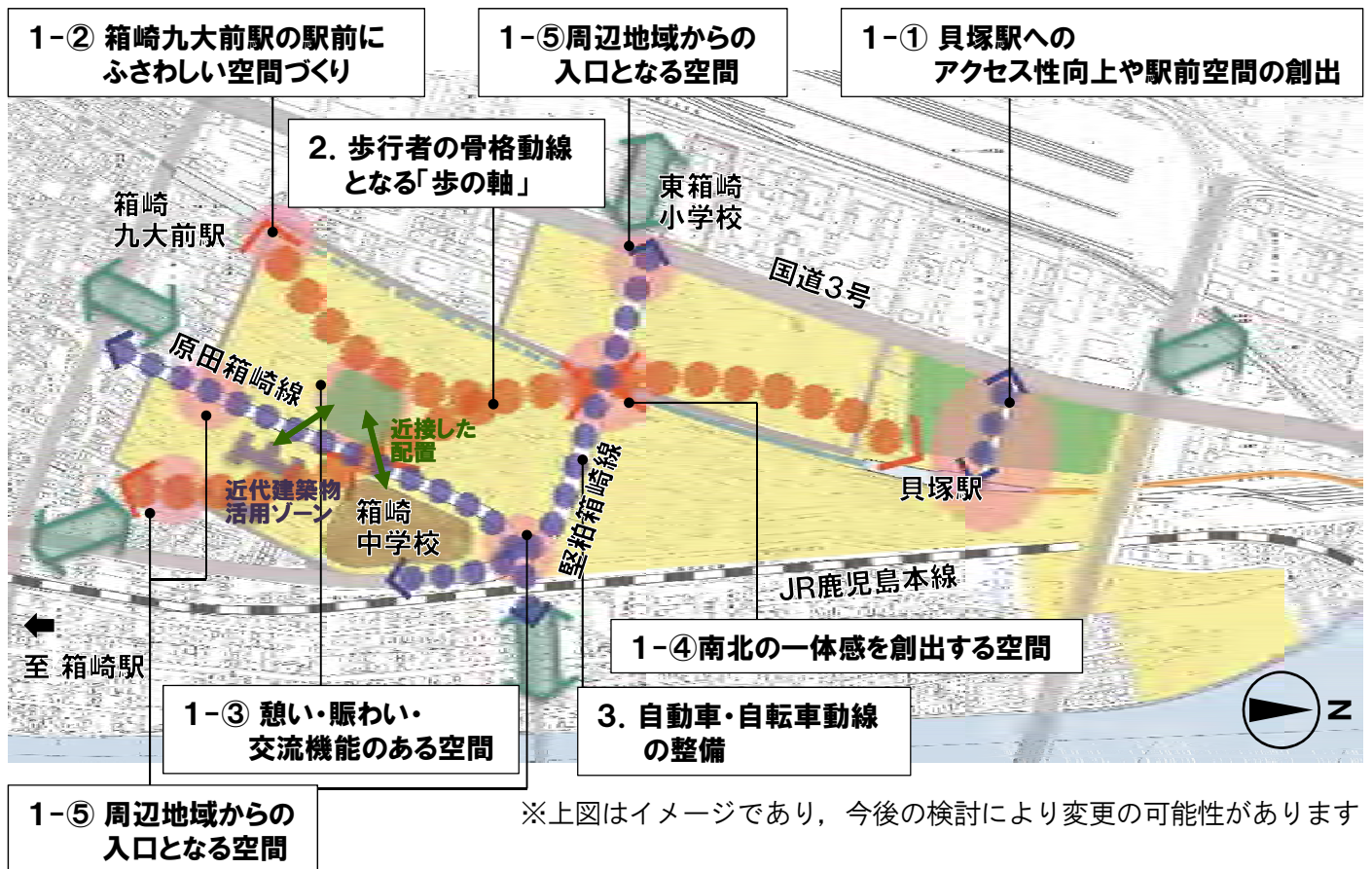
- ・自動車動線については、都市計画道路である主要動線や、周辺道路や土地利用を踏まえた補助動線を体系的に整備する。
- ・自転車動線についても同様に、自転車の主要動線や補助動線を整備する。

4. 緑空間の確保

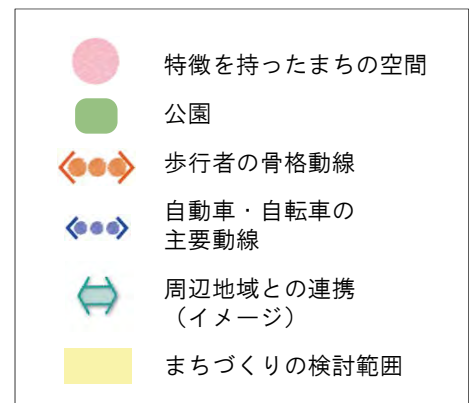
- ・公園や広場、歩行者空間、道路等において緑豊かな空間を確保するとともに、有機的に繋いだ緑のネットワークを形成する。

5. 歴史の継承

- ・未来に誇れる新たなまちづくりにおいて、九州大学の地に存在した歴史的資源と緑を活かし、その面影や記憶を継承する。



※上図はイメージであり、今後の検討により変更の可能性があります



(2) オープンスペース（広場・公園等）

- ・跡地等や周辺の居住者、来街者、働く人など様々な人が利用し交流する空間の創出を目指し、跡地等だけでなく、周辺地域の動線や既存公園等も考慮しながら、広場・公園等のオープンスペースを適切に配置する。

1. 街角広場等の整備

《基本的事項》

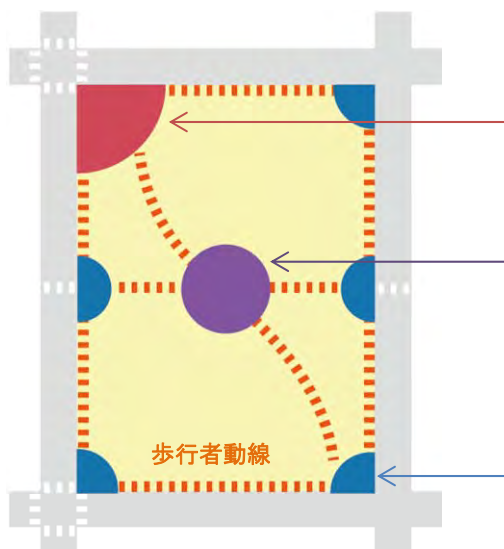
- ・来街者を迎える入口となる空間とするとともに、様々な人が集い、交流し、まちの一体感を創出するなど、それぞれの特徴を持ったまちの空間づくりに応じた、街角広場を確保する。
- ・交差点等における見通しを確保するとともに、歩行者が安全・安心して通行でき、溜まれる空間として街角広場を配置する。
- ・歩行者の骨格動線となる「歩の軸」においても、憩いや賑わいをもたらす街角広場を適宜確保する。
- ・街角広場については、歩行者の交通量や動線、周辺との関係性、場所性、街区内における広場等面積のバランスなどを踏まえ、適切な位置や規模の空間を確保する。
- ・新たに整備される区画道路により交差点等が形成された場合においても、周辺環境や土地利用等を踏まえ、適切な位置や規模の街角広場を確保する。

- 箱崎駅や既成市街地からの入口となる空間(参考:現況)



箱崎キャンパス正門(福岡市)

■ 街角広場の考え方（イメージ）



入口となる空間

- ・まちの入口となる空間であるとともに様々な人が集い、交流し、まちの一体感を創出する空間として、印象的な街角広場を確保

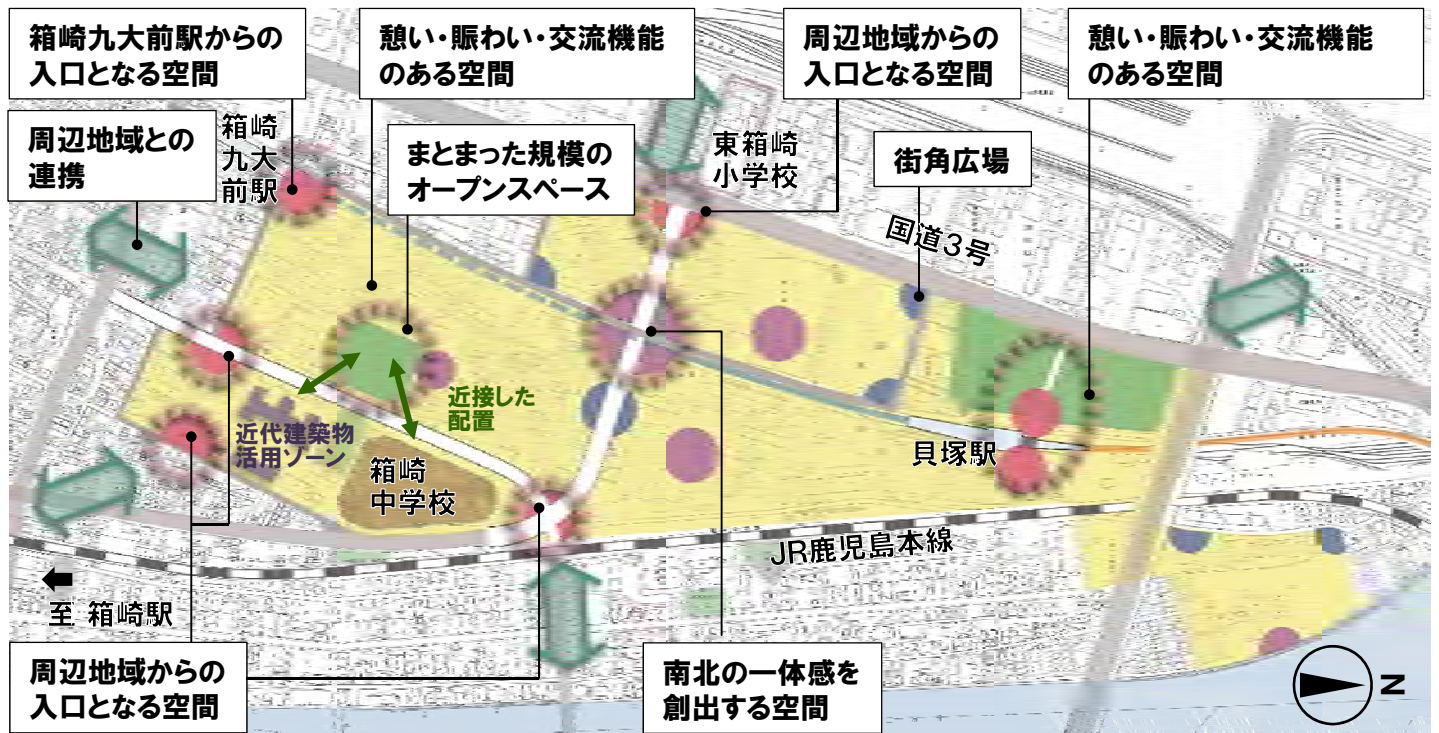
賑わい空間

- ・憩いや交流を創出する空間として、まちの賑わいやうるおいをもたらす街角広場を確保








歩行者に配慮した空間

- ・交差点等における見通しを確保するとともに、歩行者が安全・安心して通行でき、溜まれる空間として街角広場を確保

■オープンスペース（広場・公園等）の整備イメージ



※上図はイメージであり、今後の検討により変更の可能性があります

	特徴を持ったまちの空間		周辺地域との連携 (イメージ)
	公園		まちづくりの検討範囲
	街角広場等（入口となる空間）		
	街角広場等（賑わい空間）		
	街角広場等（歩行者に配慮した空間）		

○ 必要な機能イメージ

入口となる空間イメージ

シンボルとなるモニュメントや樹木等、休息し、交流するための広場やベンチ等



柏の葉アクアテラス周辺(柏市)



六本松キャンパス跡地(福岡市)

賑わい空間イメージ

休息し、交流するための広場やベンチ等、うるおいのある、まとまった緑空間等



中野セントラルパーク(東京都)



シンガポール

歩行者に配慮した空間イメージ

歩行者空間と連続した見通しの良い広場等



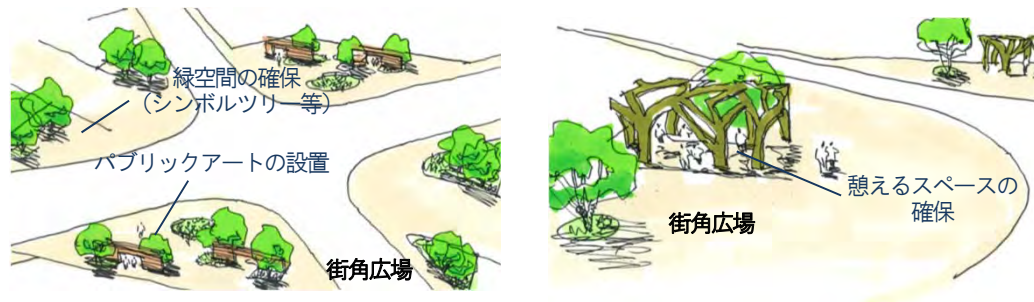
キャナルシティ博多イーストビル(福岡市)



《努力事項》

- ・ 既存のバス停や新たに整備されるバス停に隣接する場所には、バス利用者が安全・安心して溜まれる広場の設置に努める。
- ・ 上記以外の場所においても、歩行者交通量や動線，周辺との関係性，場所性を考慮し，広場の確保に努める。
- ・ まちの一体感を創出するため，街角広場は統一されたデザインやオブジェの配置に努める。
- ・ まちへの愛着向上や特徴的な広場づくりのため，まとまった緑空間やシンボルツリーの設置など緑を活かした空間整備や，溜まり空間の確保など，場所ごとの特性に応じた整備に努める。
- ・ 隣接する施設の主要な出入口を街角広場に向けて設置するなど，人の交流を生み出すための顔づくりに努める。
- ・ 街角広場は，災害時の一時的な避難場所やイベント開催時に利用するなど，周辺地域との関係性も踏まえながら，幅広い活用が可能な空間づくりに努める。

■特徴的な街角広場の整備（イメージ）



2. 公園の整備

《基本的事項》

- ・ 良好な都市環境や憩い・市民活動の場の提供，防災性・安全性向上のため，十分な空地を有する公園を確保する。
- ・ 南エリアには，身近な公園不足を解消するため，新たに公園を整備するとともに，一体的な活用や防災性の向上を図るため，箱崎中学校，近代建築物活用ゾーン近くに配置する。
- ・ 北エリアには，憩い・賑わい・交流機能のある駅前空間を創出するため，貝塚公園を再整備する。

《努力事項》

- ・南エリアの公園は、公園内から近接する近代建築物活用ゾーンへの視線の通りを意識した空間形成に努める。
- ・南エリアの公園と近接する周辺街区においては、公園との繋がりに配慮し、一体的な空地や緑空間の創出に努めるとともに、建築物の出入口や低層部における店舗や交流スペースの設置など、公園へ向けた賑わいの滲み出しに留意した計画に努める。
- ・北エリアの公園は、来街者等の利用にも配慮し、交通結節機能を持つ貝塚駅への視認性を高めるため、国道3号からの見通し確保に努める。

■ 憩いや賑わいをもたらす公園イメージ



ブライアントパーク(ニューヨーク)

■ 公園と立地施設との連携や一体的な活用イメージ



立命館大学大阪いばらきキャンパスと岩倉公園(茨木市)

■ 公園と広場等によるまとまった規模のオープンスペースの確保イメージ



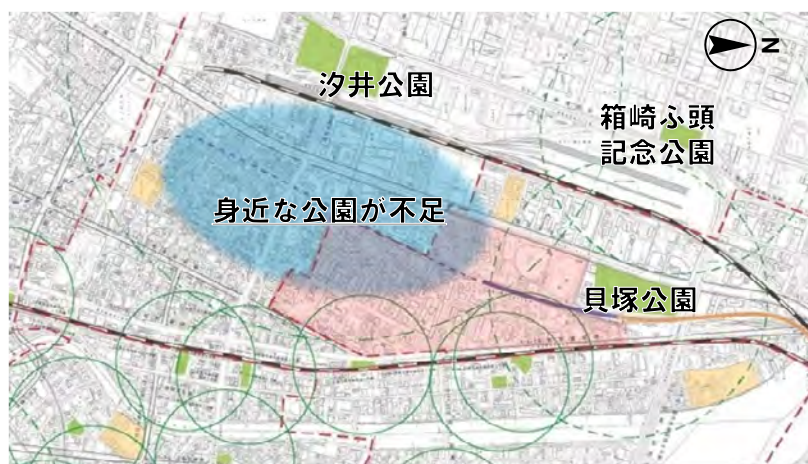
六本松キャンパス跡地(福岡市)

■ 賑わい・交流機能のある公園イメージ



警固公園(福岡市)

《参考》周辺の公園配置状況



■ 公園	公園
○	街区公園 (誘致距離: 半径250m)
○	近隣公園 (誘致距離: 半径500m)
○	地区公園 (誘致距離: 半径1km)
■	小学校・中学校
□	小学校区
■	箱崎キャンパス

(3) 歩行者動線

- ・広場や公園等のオープンスペース、民有地における歩行者動線、歩道、セットバック空間などを有機的に繋ぎ、連続性を確保することで、回遊性を高め、快適で安全に通行でき、まちの一体感を創出する歩行者動線を形成する。

1. 歩行者の骨格動線となる「歩の軸」の形成

《基本的事項》

- ・歩行者の骨格動線となる「歩の軸」を形成し、歩いて楽しく、憩い、賑わいをもたらす人中心の空間を確保する。
- ・「歩の軸」における歩行者空間の形成に向け、土地利用や歩行者の交通量、シンボル性等に配慮した幅員や構成とする。

《参考》「歩の軸」イメージ

- ・歩行者の骨格動線となる「歩の軸」は、歩いて楽しく、憩い、賑わいをもたらす人中心の空間とするため、まちの場所ごとの特性に応じた特色ある街並み景観づくりに配慮し、変化に富んだ景観が展開する歩行者空間を形成する。
- ・「歩の軸」の一部を、南エリアの公園と一体のものとする事で、広がりある緑空間を望む景観を形成する。
- ・「歩の軸」の周辺部においては、人にやさしい空間を創出するため、ヒューマンスケールに配慮した空間形成や圧迫感を軽減するデザインの工夫、緑空間の確保を行う。
- ・「歩の軸」沿いの建築物においては、人の交流を生み出すため、出入口を設けるなどの顔づくりに努めるとともに、賑わいの創出に向け、低層部における店舗・交流スペース等の設置や、開放的なデザインの工夫を行う。

■「歩の軸」(一部)のイメージ図



「そうつく」空間の創出

○回遊性の向上や、憩い、賑わい、交流をもたらす、人中心の空間

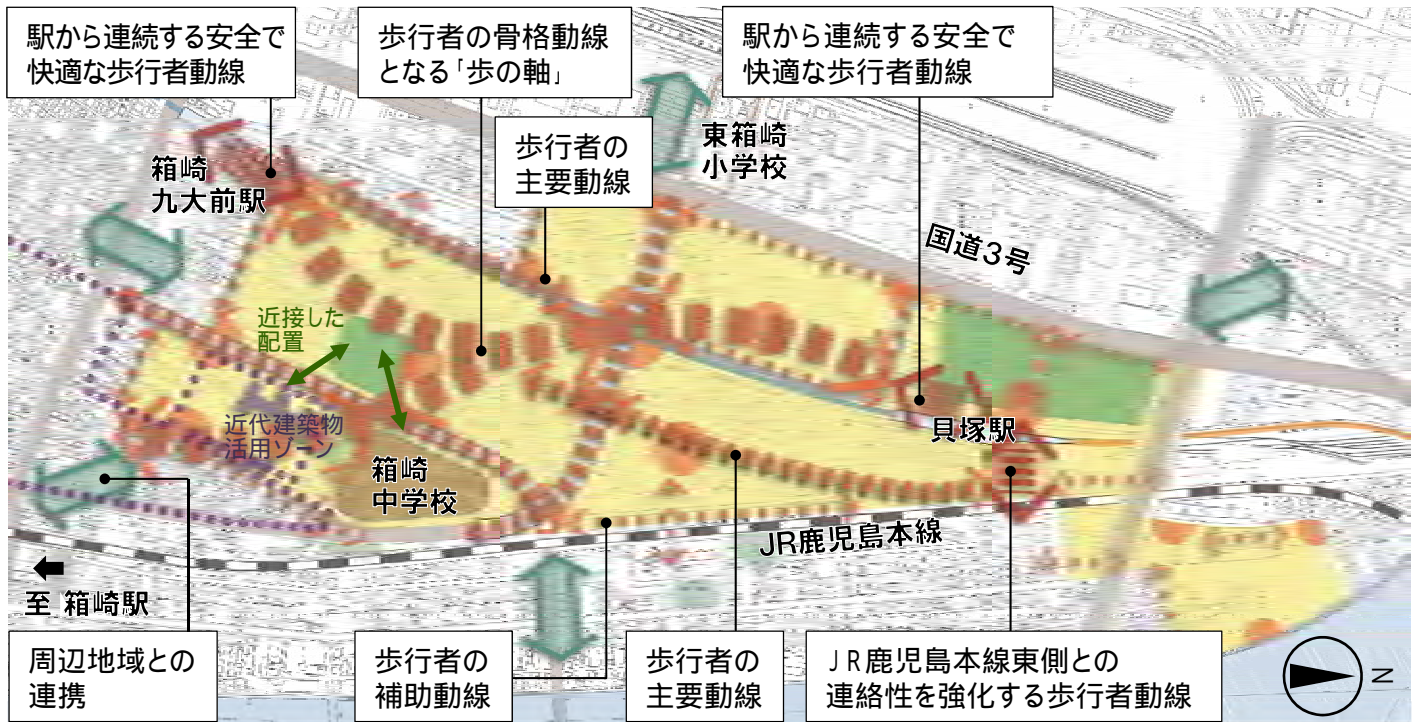


大学百年の歴史と緑の継承

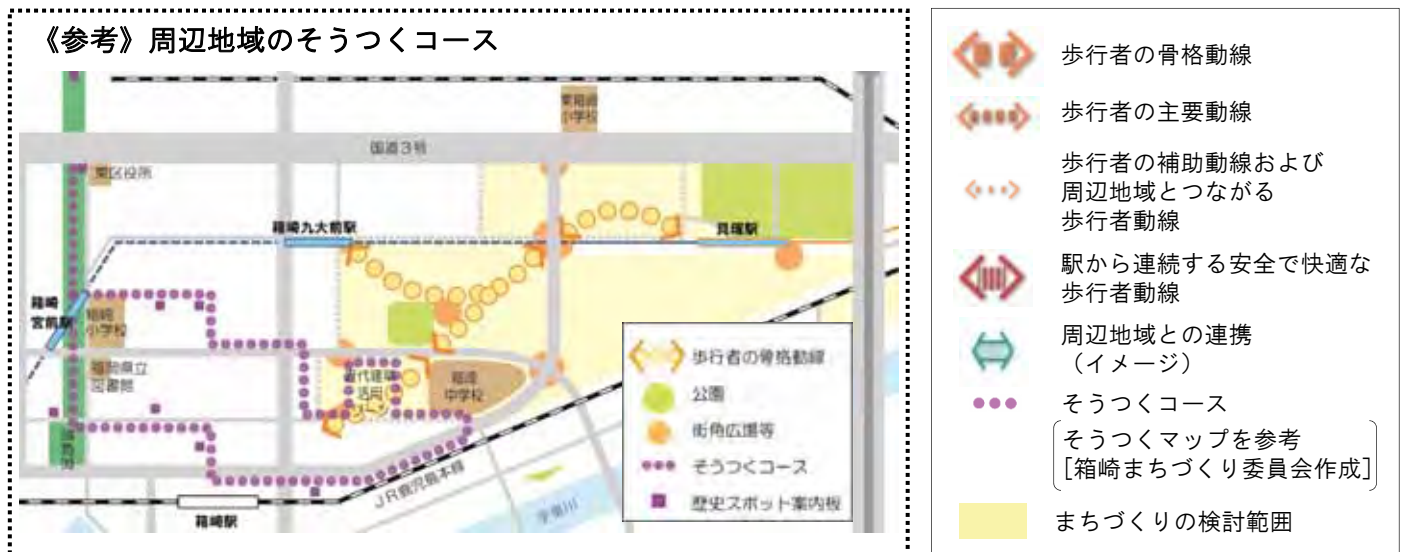
○近代建築物の部材や工作物、既存樹木などの歴史的資源の活用



■歩行者動線の整備イメージ



※上図はイメージであり、今後の検討により変更の可能性があります



2. 利便性、回遊性の向上に寄与する歩行者動線

《基本的事項》

- ・歩行者ネットワークを強化するため、まちの顔となる空間や広場等を有機的につなぎ、利便性、回遊性の向上に寄与する、歩行者の主要動線を確保する。
- ・また、骨格動線、主要動線を補完する、歩行者の補助動線を適宜確保する。

《努力事項》

- ・周辺地域との一体的な発展を目指し、「宮崎宮」「町屋」などの歴史的・文化的な資源や既成市街地のそうつくコース、JR箱崎駅と跡地等の繋がりに配慮し、わかりやすく快適に歩ける歩行者空間の整備に努める。

3. 駅からの安全で快適な歩行者動線の確保

《検討の方向性》

- ・ 多数の人が訪れる施設が立地する場合，駅から連続する安全で快適な歩行者動線を確保する。
- ・ JR鹿児島本線東側との連絡性を強化する歩行者動線を確保する。

■ 駅から連続する安全で快適な歩行者空間のイメージ例（歩行者デッキ）



姫路駅周辺(姫路市)

4. ゆとりある歩行者空間の確保

《基本的事項》

- ・道路沿いの歩行者動線については、ゆとりある歩行者空間を形成するため、歩道および歩道と連続したセットバック空間を一体の空間として確保する。
- ・セットバック空間は、通り抜けや植栽、休憩施設、溜まり空間等としても機能するものとし、歩行者の交通量や周辺との関係性や場所性を踏まえた、適切な幅員を確保するとともに、周辺地域との連続的な歩行者動線となるよう、既存道路等を考慮した計画とする。

《努力事項》

- ・歩行者空間においては、安全・快適に通行できる環境づくりのため、幅員等に応じ、ゆとりある空間確保や、舗装のカラー化等に努める。
- ・セットバック空間においては、デザインされたベンチ等のストリートファニチャーの設置や、植栽、休める場所（オープンスペース等）の整備など歩いて楽しめる空間づくりに努める。

■セットバックによるゆとりある歩行者空間の確保(事例)



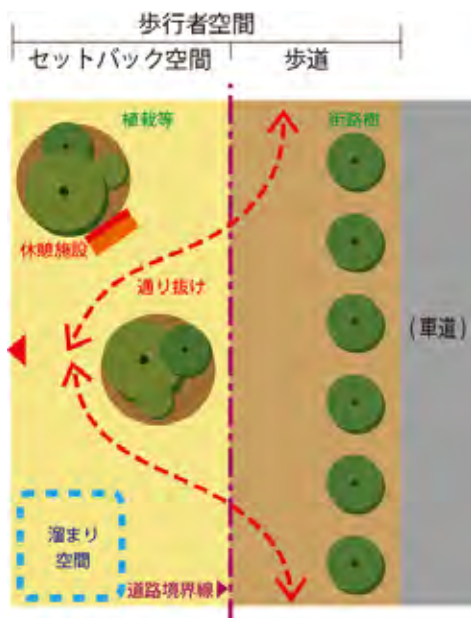
六本松キャンパス跡地(福岡市)



天神きらめき通り(福岡市)

■歩道等と連続したセットバック空間

(平面イメージ)



(断面イメージ)

